

事業名		青少年活動の推進				評価実施者		所 属 社会教育課 職・氏名 課長 南 健 次																																																																																																					
主要事業の概要	開始年度	根拠法令等				特定財源																																																																																																							
	実施方法	☒ 直接 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担金 ☐ その他〔活動へのアドバイス等〕																																																																																																											
	目 的	青少年の各成長段階に応じた各種学習機会の提供、発表や活躍の場の創出、青少年育成活動や事業へのサポート等を通じて、青少年に豊かな社会性と人間性を育ててもらう。																																																																																																											
	事業内容	・滝川遊学会：子どもの元気応援団等の支援によるレクリエーション他各種体験事業の実施。※H21年度主要施策 ・青少年育成関係団体の育成、支援および連携を図った事業の充実 ・「少年の主張大会」の実施 ・「青少年善行表彰」の実施 ・青少年健全育成事業奨励補助金による各種青少年健全育成関係団体の活動支援 など																																																																																																											
事業コスト		18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	特 記 事 項																																																																																																						
	事業費(A)	6,679	9,279	5,202	6,549	5,354	滝川遊学会事業は平成18年度までは道費補助事業(H18補助額:223千円) ※単位:千円																																																																																																						
	うち一般財源	6,456	9,279	5,202	6,549	5,354																																																																																																							
	人件費(B)	19,277	17,482	17,045	17,593	15,394																																																																																																							
	総コスト(A)+(B)	25,956	26,761	22,247	24,142	20,748																																																																																																							
実績と成果	区 分		単位	H18	H19	H20	H21	H22	左記以外の21年度の実績・成果																																																																																																				
	事業の実績 (アウトプット)	1	滝川遊学会(参加者)	人	838	677	596	795																																																																																																					
		2	奨励事業補助(件数)	件	11	7	10	7		(9)																																																																																																			
		3	勤労青少年ホーム(登録者数)	人	91	84	52	60																																																																																																					
	事業の成果 (アウトカム)	1	児童館利用者数	人	97,090	102,632	88,209	85,547																																																																																																					
		2	奨励事業補助(金額)	千円	798	443	640	463		(729)																																																																																																			
		3	勤労青少年ホーム利用状況	人	3,187	2,860	2,013	1,840																																																																																																					
<table border="1"> <tr> <th>評価項目</th> <th>点数</th> <th colspan="8">判 定 及 び 説 明 ・ 考 察</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">1 適応性 有効性</td> <td rowspan="3">6</td> <td colspan="8">①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。 ☐ 5 ☐ 4 ☒ 3 ☐ 2 ☐ 1</td> </tr> <tr> <td colspan="8">②事業の目的に照らして効果的な手法か。 ☐ 5 ☐ 4 ☒ 3 ☐ 2 ☐ 1</td> </tr> <tr> <td colspan="8"> ・青少年関連の各事業を企画、検討する際、必ず新たなプログラムの導入や引き続き取り組んでもらいたい事業の継続等について、各支援団体等を交えて協議をした上で、事業を実施している。 ・各事業に対して、対象者や団体の実情、今までの経過などを考慮して様々な手法で事業の実施やサポートに取り組んでいるが、青年期の活動に対するサポートの内容とその手法については、より積極的な対応が必要とされている。 </td> </tr> <tr> <td rowspan="3">2 目標 達成度</td> <td rowspan="3">8</td> <td colspan="8">③目標の水準は適切か。 ☐ 5 ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1</td> </tr> <tr> <td colspan="8">④計画通りに目標を達成できたか。 ☐ 5 ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1</td> </tr> <tr> <td colspan="8"> ・「少年の主張」や「かるた大会」等では、全道大会への進出、好成績を残すなど少年期の活動については十分な成果が認められる。青年期の活動についても、地道なボランティア活動の取り組み等はなされているが、時代を反映したメンバーの減少などについては、今後の改善が必要とされることである。 </td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3 経済性</td> <td rowspan="2">4</td> <td colspan="8">⑤コストは縮減しているか。 ☐ 5 ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1</td> </tr> <tr> <td colspan="8"> ・従前より多くの事業で各支援団体等にボランティアで協力してもらうなどにより、コストの縮減と事業実施に係る事務の効率化が図られている。 </td> </tr> <tr> <td rowspan="2">総合評価</td> <td>合計 ↓ 100点 換算</td> <td>18 /25 72 /100</td> <td>ランク (A～E) B</td> <td colspan="7"> 上記評価を踏まえた事業の課題 多くの事業については、これまでどおり各プログラムの継続および更新を見極めながら事業展開を続けていくことが望ましいと考えるが、青年活動に対するサポートについては、より重点的な取り組みが必要な状況ではないかと考える。 </td> </tr> <tr> <td colspan="9"> ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☒ 質的向上 ☐ スピートアップ ☐ 検証 ☐ 現状維持 </td> </tr> </table>										評価項目	点数	判 定 及 び 説 明 ・ 考 察								1 適応性 有効性	6	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。 ☐ 5 ☐ 4 ☒ 3 ☐ 2 ☐ 1								②事業の目的に照らして効果的な手法か。 ☐ 5 ☐ 4 ☒ 3 ☐ 2 ☐ 1								・青少年関連の各事業を企画、検討する際、必ず新たなプログラムの導入や引き続き取り組んでもらいたい事業の継続等について、各支援団体等を交えて協議をした上で、事業を実施している。 ・各事業に対して、対象者や団体の実情、今までの経過などを考慮して様々な手法で事業の実施やサポートに取り組んでいるが、青年期の活動に対するサポートの内容とその手法については、より積極的な対応が必要とされている。								2 目標 達成度	8	③目標の水準は適切か。 ☐ 5 ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1								④計画通りに目標を達成できたか。 ☐ 5 ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1								・「少年の主張」や「かるた大会」等では、全道大会への進出、好成績を残すなど少年期の活動については十分な成果が認められる。青年期の活動についても、地道なボランティア活動の取り組み等はなされているが、時代を反映したメンバーの減少などについては、今後の改善が必要とされることである。								3 経済性	4	⑤コストは縮減しているか。 ☐ 5 ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1								・従前より多くの事業で各支援団体等にボランティアで協力してもらうなどにより、コストの縮減と事業実施に係る事務の効率化が図られている。								総合評価	合計 ↓ 100点 換算	18 /25 72 /100	ランク (A～E) B	上記評価を踏まえた事業の課題 多くの事業については、これまでどおり各プログラムの継続および更新を見極めながら事業展開を続けていくことが望ましいと考えるが、青年活動に対するサポートについては、より重点的な取り組みが必要な状況ではないかと考える。							☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☒ 質的向上 ☐ スピートアップ ☐ 検証 ☐ 現状維持								
評価項目	点数	判 定 及 び 説 明 ・ 考 察																																																																																																											
1 適応性 有効性	6	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。 ☐ 5 ☐ 4 ☒ 3 ☐ 2 ☐ 1																																																																																																											
		②事業の目的に照らして効果的な手法か。 ☐ 5 ☐ 4 ☒ 3 ☐ 2 ☐ 1																																																																																																											
		・青少年関連の各事業を企画、検討する際、必ず新たなプログラムの導入や引き続き取り組んでもらいたい事業の継続等について、各支援団体等を交えて協議をした上で、事業を実施している。 ・各事業に対して、対象者や団体の実情、今までの経過などを考慮して様々な手法で事業の実施やサポートに取り組んでいるが、青年期の活動に対するサポートの内容とその手法については、より積極的な対応が必要とされている。																																																																																																											
2 目標 達成度	8	③目標の水準は適切か。 ☐ 5 ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1																																																																																																											
		④計画通りに目標を達成できたか。 ☐ 5 ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1																																																																																																											
		・「少年の主張」や「かるた大会」等では、全道大会への進出、好成績を残すなど少年期の活動については十分な成果が認められる。青年期の活動についても、地道なボランティア活動の取り組み等はなされているが、時代を反映したメンバーの減少などについては、今後の改善が必要とされることである。																																																																																																											
3 経済性	4	⑤コストは縮減しているか。 ☐ 5 ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1																																																																																																											
		・従前より多くの事業で各支援団体等にボランティアで協力してもらうなどにより、コストの縮減と事業実施に係る事務の効率化が図られている。																																																																																																											
総合評価	合計 ↓ 100点 換算	18 /25 72 /100	ランク (A～E) B	上記評価を踏まえた事業の課題 多くの事業については、これまでどおり各プログラムの継続および更新を見極めながら事業展開を続けていくことが望ましいと考えるが、青年活動に対するサポートについては、より重点的な取り組みが必要な状況ではないかと考える。																																																																																																									
	☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☒ 質的向上 ☐ スピートアップ ☐ 検証 ☐ 現状維持																																																																																																												

【評価点数】

5 : 十分できている 4 : できている 3 : ほぼできている 2 : あまりできていない 1 : できていない

【総合評価ランク】

A : 86点以上 優れた取組が多く、十分に成果が上がっている
 B : 71～85点 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
 C : 56～70点 一定の成果は上がっているが課題もあり、更なる取組によって上位を目指す必要がある
 D : 41～55点 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多く、更なる改善が必要である
 E : 40点以下 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要である

◎外部評価委員の評価・意見等

◎外部評価委員の評価意見等									
評価項目		点数	判 定					点検・評価に関するコメント	
1	適応性 有効性	7	①	☐ 5	☒ 4	☐ 3	☐ 2	☐ 1	・市民ニーズで現状に適しているかの3点というのは非常に曖昧な評価。現状とミスマッチなのか、この程度ということなのか。前者であれば手法も目標も変えなければならない。
			②	☐ 5	☐ 4	☒ 3	☐ 2	☐ 1	
2	目 標 達成度	8	③	☐ 5	☒ 4	☐ 3	☐ 2	☐ 1	
			④	☐ 5	☒ 4	☐ 3	☐ 2	☐ 1	
3	経済性	4	⑤	☐ 5	☒ 4	☐ 3	☐ 2	☐ 1	
		合計	19 /25	100点 換算	76 /100	ランク	B		